

## 第三者評価結果報告書

《総括》	
対象事業所名	駒岡保育園
経営主体(法人等)	社会福祉法人 鶴見乳児福祉センター
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒230-0071 横浜市鶴見区駒岡 4-5-31
設立年月日	平成 25 年 4 月 1 日
評価実施期間	平成 29 年 11 月～平成 30 年 2 月
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版

### 総合評価

#### ●駒岡保育園の立地・概要

駒岡保育園は、JR京浜東北線鶴見駅から市営バスの瀬または綱島駅行きにて18分、駒岡八幡神社下車徒歩5分の静かな住宅街の一角に位置しています。園舎は平屋建ての建物であり、門から見える広い園庭と玄関までの石畳が開放感を醸し、周囲には大きな栃の木と子どもがよじ登れる木々が植栽されています。園庭には砂場、ジャングルジム、鉄棒、滑り台等の大型遊具が設置され、プランターには収穫を終え、種採取用の実を付けた季節の野菜が植えられています。園舎脇には「畝付き畑」があり、さつまいもを掘った跡がうかがえ、子どもたちの笑顔と歓声が聞こえるようです。駒岡保育園は、豊かな自然に恵まれ、自然と共に育まれた元気いっぱい子どもたちが楽しく過ごす保育園です。

駒岡保育園は、昭和53年に横浜市立駒岡保育園として開設し、平成21年に横浜市から民間移管として、社会福祉法人鶴見乳児福祉センター（以下、法人）が運営・管理を行い、移管後、8年目を迎えた保育園です。園は、「地域社会や保護者の意見を大切に、相互の連携を密にし、信頼関係を築く保育運営に努めます」とした基本方針の基、「地域に根差した開かれた保育園」をめざし、園舎開放・園庭開放・育児相談、育児講座・交流保育・一時保育等の地域子育て支援事業を実施し、地域との関わりから子どもの豊かな育みへとつなげています。

#### ●駒岡保育園の保育の方針

駒岡保育園の理念は、「子どもの人権 人格の尊重 子どもの意思 自立への援助」とし、理念を基に、「子どもの時代は子どもらしく生きる」、「子ども一人一人を大切にする保育」を実践しています。基本方針は、「1. 地域社会や保護者の意見を大切に、相互の連携を密にして信頼関係に基づく保育運営に努めます。2. 愛と希望に満ちた明るい保育をめざし、子どもたちの人間形成の基礎作りをします。3. 地域に開かれた施設として、保育園で持っている乳幼児保育に必要な事柄の提供、開放を行います。」を謳い、保育目標に、「じぶんがすき みんながすき いっしょに育ち合おう」を掲げています。一人一人の子どもが様々な体験を通して、周囲の人々の愛と希望に育まれ、未来を担う子どもたちが先ず、自分を大切に、みんなを大切にし、命を大切に思いやれる人として共に育ち合えるよう、「人間形成の基礎作りの支援」を理念・方針として保育を実践しています。

## 《優れている点》

### 1. 「向き合う保育」の推進

駒岡保育園では、保育理念・保育目標の具現化への取り組みとして、「子どもの時代を子どもらしく生きる」、「子どもたち一人一人を大切にする保育」を基に、全園児の月間個別指導計画を策定し、子どもの「今」を見つめつつ、人間形成の基礎作りへの支援の在り方について、非常勤職員を含め全職員が各種会議（職員会議、非常勤会議、クラスミーティング、乳・幼児会議、保育会議、食育会議）等で検討し、子どもたちと過ごす今を大切にしてい保育に取り組んでいます。

#### ＜子どもたちが遊び込める環境作り＞

子どもたちは、保育室内の玩具収納棚や園庭にある収納庫から玩具を自由に取り出して遊んでいます。保育室内は、壁に向かって手作りのテーブルや椅子が設置され、小さな仕切りパーテーションでコーナーを設け、自分だけのスペースを作ったり、押し入れの中に入り込んで仲良しのお友達とお店屋さんごっこをする等、子ども同士、様々な場面でルールを作りながら互いを思いやり、遊びを楽しむ様子が見られ、子ども本位とした職員の配慮の下、子どもが遊び込める環境作りがされています。

#### ＜子どもの自立に向けた援助＞

園庭では、子どもたちがスコップ、コップ、小さなバケツを使って砂まんじゅう等を作ってケーキ屋さんごっこの砂遊びや、ボール蹴り、三輪車乗り、なわとび、それぞれの思いの遊具を持ち出して遊んでいます。また、滑り台やジャングルジム、小山登り、かけっこ等、子どもらしく活発に遊ぶ中、保育士も遊びに混じりながら絶え間なく一人一人に目を配り、見守り、園庭で異年齢の子どもが交流しながら楽しく遊んでいます。遊び終えた子どもは、使っていた遊び道具を収納庫に写真が示された所定の場所に戻し、「使ったものはキッチンと片づける」を学び、生活でのマナーが自然と身につくよう、自立に向けた保育が行われています。

#### ＜地域の子育て支援＞

園では、「地域に開かれた施設として、保育園で持っている乳幼児保育に必要な事柄の提供と開放を行う」とした基本方針に沿い、地域の子育て支援を実施しています。平日、時間を設定して「園庭開放」を行い、午前、午後の設定時間には「ぐりぐら文庫」の本の貸し出しを行い、夏季には「プールの開放」を実施しています。他に、「育児相談」、「一時保育」、「交流保育」、「リズム交流」、「お話し会」、「ふれ合い遊び」、試食会を兼ねた育児講座も実施しています。散歩時には公園で遊んでいる地域の子育て親子に園のパンフレット配付と共に、子育て支援事業を案内する等、積極的に地域の子育て支援に尽力しています。

### 2. 法人機能の活用と、統一された保育活動の展開

職員の資質向上への取り組み、人材育成について、園では主任作成の独自書式を活用して目標管理を実施しています。職員は、日々の職務から自分自身の必要課題を抽出し、所定用紙にて園長に提出し、職員面談により個人目標を設定しています。また、中間、期末に達成度の評価と今後の課題を明確にして共有を図り、課題解決に向けた研修ニーズから園内研修、法人系列3園での合同研修、さらに外部研修を受講して積極的に研鑽を図っています。研修受講内容は、職員会議、非常勤会議で報告を行い、全職員で共有し、保育に反映させています。園では、年度を通して職員一人一人の資質向上の取り組みに力を入れ、園全体の質の向上につなげています。

## 〈さらなる期待がされる点〉

### 1. 外部からの侵入防止対策について

第三者評価の利用者アンケート結果では、「施設についての不満を感じている（老朽化、トイレの臭気）」が36%、「外部からの侵入を防ぐ対策について不満を感じている（柵が低い、鍵が開いている時間がある等）」は34%という結果になっており、保護者からは朝夕の開錠時間に不安を感じている傾向が見られました。現在、園の出入口にはアルミ製の立派な門扉が設置され、防犯カメラと電子錠が施され、各家庭に開錠時のセキュティーカードを配布し、園内入門時にはカードを翳<sup>かざ</sup>して認識後、事務所との応答で開錠されるシステムを整えています。また、警備会社とも連動システムを構築して安全に配慮する等、設備を整備して万全を期していますが、運用上で送迎ラッシュ時に保護者が不安を感じている点では、今後さらなる工夫、検討が期待されます。

### 2. 将来を見据えた園としての取り組み

施設の老朽化については、平成30年4月から新園舎への改築が着工され、園舎の改築に伴い、アンケートでの不満点は期待に変わることでしょう。しかし、新園舎までの仮園舎では、衛生、安全、安心面での対策に万全を期し、園長が今後の取り組みのテーマとして掲げられているさらなる職員の資質向上と、子ども中心として保護者が1番の保育の応援隊になってもらえるよう、さらに、地域の中にある保育園として、あらゆる世代から支持を受け、安心できる園生活の構築に、大きく期待をいたしております。